

昨日6日、例年よりも8日ほど早く、関東地方が『梅雨入り』をしたそうです。日本では 神様から与えられた四季の中でも、最も鬱陶しいと言われるこの時期ですが、朝起きてカーテンを開け どんよりした空と土砂降り流れ続ける雨の音に“はぁ”と溜息を漏らすのは大人達。子ども達にとっては 窓の外が雨であっても晴れであっても、心の中はどんな時も変わらず、明るく輝く太陽の如く 命の息吹に満ちあふれています。

日本の教育者 倉橋惣三氏は、著書の中の「六月」の項で こんなふうに述べています。

「外には雨が降りつづけている。部屋のうちは笑い声で晴れ渡っている。

窓硝子は ぬれて曇っているが、子どもたちの顔はみんな明るく輝いている。

外からの光でなく、内からの光である。天の太陽は雲につつまれる日があっても、ここの小さき太陽たちは、いつだって好天気だ。

子どもらに、またしても 鬱陶しそうな顔を見せるのは おとなだ。

なぜこう降るのかと、いっても仕方がない かちごと（不平不満）をいって、呟いて聞かせるのも おとなだ。

— 子どもは、知らなくてもいいことを、おとなから教えられることが 屡々ある。

六月の雨だって、大人が教えなかったら、子どもには少しも苦にならないものであろう。 『育ての心（上） フレーベル館 版』より

「雨だからお外には行かないよ」「雨は濡れると風邪ひいちゃう」「泥で汚れちゃう…」幼い子ども達の心に そんなイメージで、雨を感じてほしくないなあと願っています。雨の日には雨の日の楽しさがあります。雨を喜んでいる道端の小さな花達や虫の存在、水溜りを歩く面白さ・困難さ・空から水が落ちてくる不思議さ・雨音の軽やかさなど子ども達にとって たくさんの発見や驚きがいっぱいです。濡れることや汚れることでこの時期ならではの様々な感覚を味わい、その経験を通して 子ども自身が気づいたり考えたりできる機会に変えていくことを大切にしたいと思っています。

つのぶえでは 梅雨期に入ると『雨の日さんぽ』に 外へ出かけるクラスが増えますが、子ども達も お気に入りの傘や長靴、レインコートを楽しそうに互いに見せ合いながら元気よく出かけ、「わぁ！ピシヨピシヨだよ～」「お花が雨のお水を飲んで喜んでたヨ」などと 毎回 満面の笑顔で戻ってきます。途中で転んで泥んこになった子ども達さえも「歩くのが大変なんだよな～」「すべっちゃったよ～」と満面の笑顔で話してくれます。そんな様子を見るたびに、雨が嫌いなのは大人達だけなのだと つくづく思われます。それでも、長雨で青空が恋しくなると ついついため息をついてしまいがちな私ですが、今年の梅雨も、太陽のような可愛い笑顔を曇らせることのないよう 子ども達と一緒に神様からの恵みの雨を感謝する毎日を 喜び楽しみ、祈りつつ過ごしたいと思います。

先日来 ご案内し、皆様にご協力を頂いておりました 1階りす組保育室の 床暖房 全面改修工事が5月22日～29日に行われ、無事 神様に守られて完了いたしました。小さな子ども達の保育園生活について、また つのぶえの様々な状況をご理解くださり 休日も返上し、暑い中 朝から夜まで尽力して頂いた 的場建設を始め 業者の皆様方に心より感謝申し上げます。明るく本当にきれいな部屋になり、子ども達も大喜びです。明日の夕方 職員で整備後、明後日から通常保育に戻ります。ありがとうございました。

「主は、その恵みの倉、天を開き、時にかなって 雨を あなたの地に与え、あなたのすべての手のわざを 祝福される。(申命記 28:12)」 (石田 記)